

分電盤は電気の見張り番!

家庭に送られてきた電気は、分電盤をとって各部屋に届けられます。分電盤には、漏電遮断器(漏電ブレーカー)、配線用遮断器(安全ブレーカー)が取り付けられており、電気的安全をしっかりガードしています。もしもの場合にそなえて分電盤がどこにあるのか、確かめておきましょう。また、分電盤の前には物を置かないようにしましょう。

分電盤には写真のとおり2つのパターンがあります。



分電盤は電気安全のカギなのよ!

電流制限器

容量以上の電気が流れると自動的に電気が止まるしくみになっています。

※地域やご契約の種類、スマートメーター導入などにより、電流制限器の取り付けがない場合や、色・名称が異なる場合があります。



漏電遮断器(漏電ブレーカー)

感電や火災の原因となる漏電をすばやくキャッチし、自動的に電気を止め、電気事故を未然に防ぎます。長期間使用していると、経年劣化などにより正しく作動しなくなることがあります。ご家庭で定期的にテストボタン(灰色または赤色)を押して確認するようにしましょう(テストボタンを押して、正常に作動した場合は全体が停電となりますのでご注意ください)。テストボタンを押しても作動しない場合は、お近くの電気工事店へご相談ください。なお、取り替えの目安は15年程度です。また、単相3線式の配線には、「中性線欠相保護機能付き漏電遮断器」をおすすめします。



配線用遮断器(安全ブレーカー)

電気の行き先(回路)ごとに、配線用遮断器がつけられています。配線が過熱するのを防ぐため、コードがショート(短絡)したり、決められた容量を超える電気が流れ続けると自動的に電気を止めます。例えば、電気炊飯器と電子レンジを同時に使用すると22Aとなり、配線用遮断器の容量20Aを超えるため、配線用遮断器が作動して電気を止めます。エアコン、衣類乾燥機などの電気を多く使う機器は、専用回路にすることをおすすめします。



容量オーバー = 合計22Aで配線用遮断器が作動!

たびたび漏電遮断器が作動する場合は、電気工事店へご相談ください。



「中性線欠相保護機能付き漏電遮断器」とは?

多くのご家庭で使用されている単相3線式配線では、中性線(真ん中の白い電線)の接触が悪くなると電圧が不安定になり、通電中の電気機器が故障することがあります。これはごく稀に漏電遮断器の端子部分のゆるみなどが原因で起こるもので、中性線欠相保護機能付き漏電遮断器は、このようなときに、いち早く電気を止めることができます。

災害にそなえましょう

災害はある日突然やってきます。普段から災害時のそなえや心がまえをしておけば、いざというときにもあわてずに済みます。

あわてないためにそなえろ!



! アツ地震! グラツきたときは

スイッチを切って、プラグを抜いて

地震のときは火災に注意。アイロン、ドライヤー、ストーブなどの熱を出す機器を使っているときは、プラグをコンセントから抜きましょう。

避難するときは、電流制限器または漏電遮断器を切って

地震で停電になっても、電気事業者の設備に問題がなければ、再び電気が送られてきます。自宅を離れ避難するときは、電気の消し忘れなどによる事故(通電火災)を防ぐために、分電盤の電流制限器または漏電遮断器を切ってください。地震がおさまったら電気機器の安全をチェックしましょう。ガス漏れのおそれがあるときには電気を使用しないようにしましょう。



日頃のそなえ

- ◆日頃から、懐中電灯(手動発電式のものもあります)や携帯ラジオ、防災リュックなどを用意しておきましょう。また、電気事業者や電気工事店の連絡先を確認しておきましょう。
- ◆モバイルバッテリーや手動発電機等、携帯電話やスマートフォンなどを充電できる装置を用意しておく、いざというときに役立ちます。
- ◆停電によるパソコンのデータ消失などを防ぐには、UPS(無停電電源装置)などの設置をおすすめします。

! ピカッ、ゴロゴロ 雷!

プラグを抜いて!

落雷による影響で、電気機器が壊れたり、火災が発生することがあります。近くで大きな雷が鳴ったら、電気機器のプラグはコンセントから抜き、電話線もモジュラージャックから抜くようにしましょう。なお、雷に対応した分電盤もあります。避雷器が内蔵されている分電盤は、電源線、アース線から侵入する雷サージを防ぎ、家庭の電気機器を守ってくれます。



! 台風・暴風雨にそなえて

屋外照明器具などをチェック

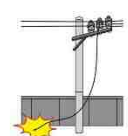
屋外に設置されている照明器具やアンテナなどが家屋にしっかりと固定されているか確かめましょう。また、台風による浸水などで屋内配線や電気機器が水に浸かってしまった場合は、使う前に必ず電気工事店などにご相談ください。



! 切れた電線には絶対にさわらないで!

電気事業者へすぐご連絡を

たれ下がった電線にさわると感電するおそれがあります。切れた電線には絶対にさわらないでください。また、樹木や看板、アンテナなどに電線がふれている場合も危険です。見つけたときは近づかないで、すぐ、お近くの電気事業者にご連絡ください。



その使い方は○? X!?

電気の安全

チェック!!

見逃さないで!

あんなちゃん



電気の仕事は電気工事店へ

電気の屋内配線工事は、「電気工士」の資格をもった人が電気の技術基準を守って工事をするように法律で定められています。電気の仕事が必要なときは、電気工事店に依頼してください。

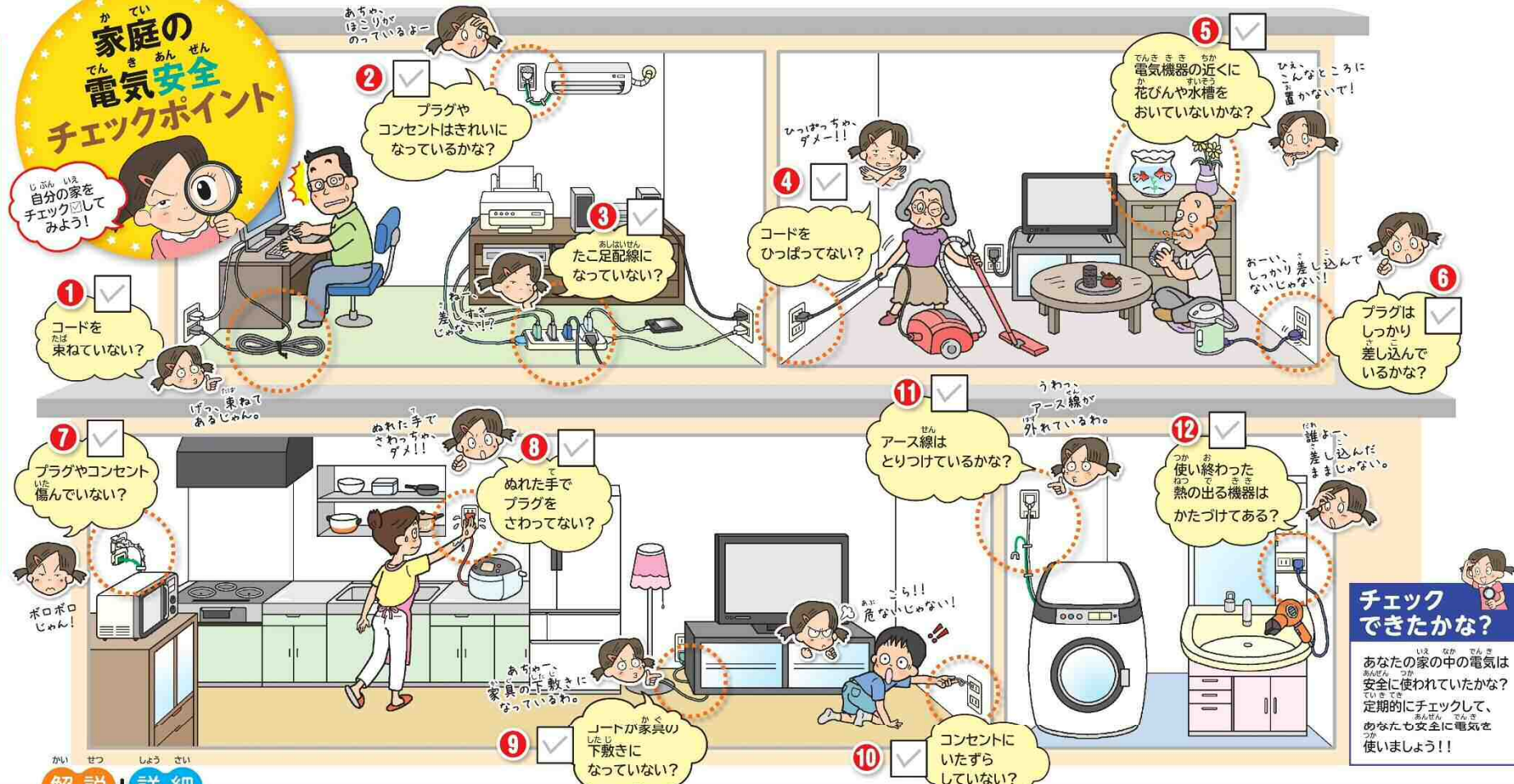


企画・編集: 電気安全全国連絡委員会 発行: ©一般社団法人日本電気協会 <http://www.denki.or.jp>

2019.7

→ 右側の絵は電気の安全な使い方を示しています。

家庭の電気安全チェックポイント



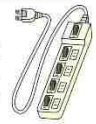
解説+詳細

- コードを束ねたり巻いたりしてはいけません。**
コードを巻いたり束ねたりすると過熱するおそれがあるのでやめましょう。
- プラグやコンセントを掃除しましょう。**
長期プラグを差し込んだままにしておくことがトラッキング現象（電気のまめちしきを参照）の原因となります。ときどき乾いた布などで掃除しましょう。
- たこ足配線はやめましょう。**
コンセントやテーブルタップの容量を超えて、一度にたくさんの電気機器を使うと過熱して危険です。
- コードをひっぱらないで！**
コードが傷んで断線や過熱の原因になるので、必ずプラグ部分をもって抜きましょう。
- 電気機器のそばに、花瓶や水槽などを置かないようにしましょう。**
電気機器に水がかかると、漏電や火災などの原因となります。水がかかった場合は、使用前にメーカーや販売店などに相談ください。
- プラグはコンセントにしっかりと差し込みましょう。**
プラグがゆるんでいると、過熱するおそれがあります。プラグはしっかりと差し込みましょう。
- 傷んだプラグやコンセントは使わないようにしましょう。**
配電やショートの原因となるので、傷んだプラグやコンセントは取り替えます。
- ぬれた手でプラグをさわると危険です。**
ぬれた手でプラグやスイッチをさわると感電のおそれがあります。さわる前に手を洗って乾かしましょう。
- コードが家具などの下敷きにならないようにしましょう。**
コードが傷んで過熱し、火災などの原因となります。また、家具でプラグを押し付けないようにしましょう。
- コンセントに異物を入れないで！**
コンセントにプラグ以外のものを入れると感電するおそれがあります。
- アース線を取り付けましょう。**
洗濯機やエアコン、電子レンジ、冷蔵庫などのアース線を専用の接地端子に取り付けましょう。アース線は感電などの危険を未然に防ぎます。
- プラグはコンセントにしっかりと差し込みましょう。**
プラグがゆるんでいると、過熱するおそれがあります。プラグはしっかりと差し込みましょう。
- 熱が発生する電気機器は、使ったあと、必ずプラグを抜きましょう。**
アイロンやドライヤー、電気ストーブなどはスイッチを切り忘れると火災の原因になるおそれがあるので、使ったあとは必ずプラグを抜きましょう。

電気のまめちしき

安心、便利な器具のご紹介

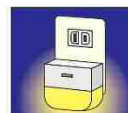
遮断器付テーブルタップ
決められた電気の容量を超えると、内蔵されている安全ブレーカーが作動し、電気を止めます。電源を差込口ごとに入り切りできる節電スイッチがついているものもあります。



便利な200ボルトの電気機器
200ボルトの機器には、高効率のエアコン、IHクッキングヒーター、電気給湯機などがあります。200ボルト機器を使うには、単相3線式の配線となります。また、その機器専用の屋内配線およびコンセントが必要となります。

マグネットコンセント
小さなお子さまやお年寄りのいるご家庭では、マグネットコンセントをおすすめします。コードが引っかかっても、プラグが簡単に外れるので安心です。一般のプラグをアダプタに差し込むことにより使用でき、上下左右にひっぱるとコードが外れやすく、まっすぐにひっぱるとコードが抜けにくい仕組みになっています。

停電のときでも安心な保安灯
コンセントに差し込んでおくと、停電のときは自動的に点灯します。なお、ふだんは常夜灯として利用できるものや、コンセントからはずすと懐中電灯に使えるものもあります。



アウトドアでの注意点

電線の近くでたこあげやラジコン飛行機、ドローンなどで遊ぶには、電線に近づくと感電する危険があるので注意しましょう。

釣りざおが電線に近づくと感電する危険があるので注意しましょう。

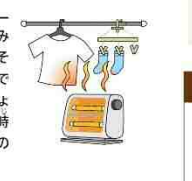
こまめにチェックしましょう！

「トラッキング現象」に気をつけましょう。
火災の原因のひとつとして「トラッキング現象」があります。長期プラグを差し込んだままにしておくために、プラグとコンセントの間にたまったホコリが湿気を帯び、プラグの刃の間にわずかな放電が繰り返されることが発端となり、プラグが突然発火する現象です。火災の原因になることがあるので、プラグをときどき抜いてコンセント周りを乾いた布などで掃除しましょう。また、「トラッキング防止カバー」の取り付けも有効です。



電気火災に注意！

衣類や布団などの可燃物が電気ストーブの近くにあると、ちょっとした火花で電気ストーブに接触し出火するおそれがあります。燃えやすいものの近くで電気ストーブを使用するのはやめましょう。また、照明器具やランプは、点灯時に高熱を発生しています。布や紙などの可燃物で覆わないようにしましょう。



長期間使用した電気機器にご注意

古い電気機器を使い続けていると、気づかないうちに部品等が劣化して事故につながる恐れがあります。「いつもと違う」「何か変だな」と感じたら、すぐに使用を中止してメーカーや販売店などに相談しましょう。



電気を上手に使うって省エネしよう

具体的な省エネのポイント

- エアコンの設定温度は控えめに。フィルターをこまめに掃除することで省エネになります。
- 必要な照明以外は消しましょう。また、白熱電球は電球型蛍光灯やLEDランプに取替えると省エネになります。
- 冷蔵庫の温度設定を「強」から「中」にすることで省エネになります。また、扉の開閉回数や時間を減らすことも効果的です。

